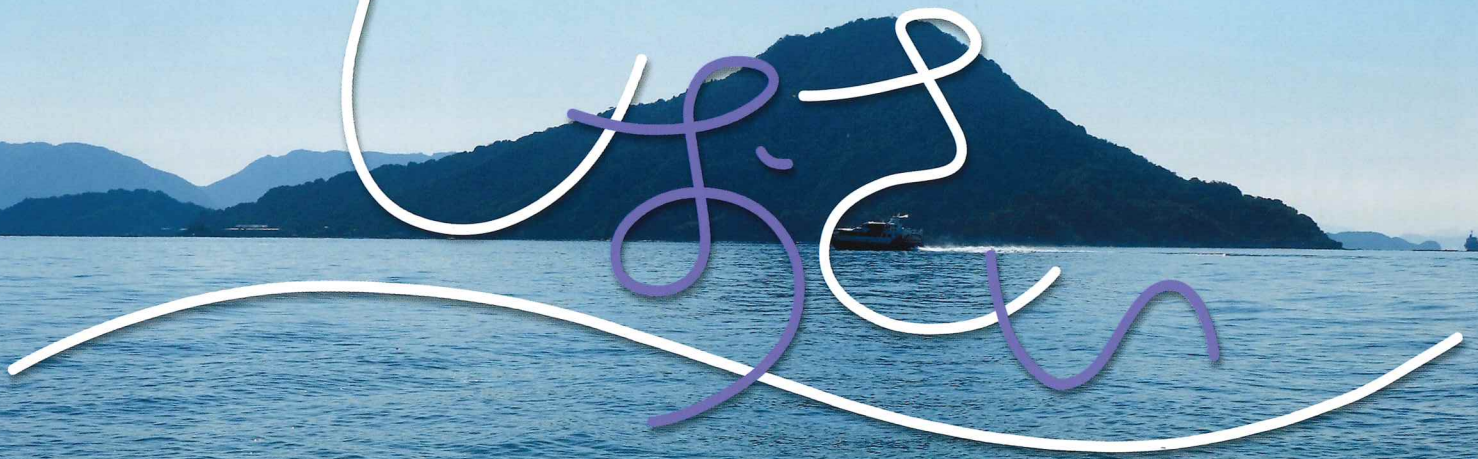




2021年  
初夏号  
vol.92

# シーサイドニュース

Medical Corporation WADOKAI  
Hiroshima Seaside Hospital



## 新入職員を迎えて

病院長 多田 恵一

広島シーサイド病院には4月、看護師4名、社会福祉士1名の計5名を新しい仲間として迎えることができました。まずもってご報告申し上げます。今回新たに加わった新しい仲間とともに、スタッフ一同で一層「心のかもった」サービスを展開してゆく所存です。この春こそ、満開の桜の木の下での祝賀のはずだった卒業式、入学式、入社式、来春こそは真に晴れやかなものになればと念じています。

さて、すでに1年半以上、国境を越えた世界を巻き込んだ新型コロナウイルスパンデミックの猛威。今やその変異種も種々登場し、まったく収束は見えませんが、希望の星とされているワクチンの開発、接種が順調に拡がり進んでいくことを願っているのが現状です。現在も世界で多くの感染者、犠牲者が出続けている中、我が国においても「緊急事態宣言」「まん延防止等重点措置」などのリアルな政策が官民一体となって実施されていますが、4月25日からは、東京、大阪、京都、兵庫に第3回目となる緊急事態宣言が発出されました。われわれ国民一人一人の頑張りが試されているように感じています。

現在のコロナ禍、我々は多くの教訓を感じつつ過ごしていると思います。この災厄にあってもなお、世界は米中はじめ一層の分断が進み、経済的格差が深まっているのは本当に嘆かわしい限りです。人間の不条理がテーマのカミュの小説「ペスト」を思い起こし感

染対策と経済の両立とその困難さ、矛盾が、今の現代社会にも問いかけられているのでしょうか。しかし、我々は辛抱強く勝ち抜かねばなりません。夏の東京オリンピックに向けた聖火リレーの風景を見ながら、今後の展開を固唾をのんで見守っているところです。

前回もご報告させていただきました通り、当院も2020年12月から、入院患者様、職員などに多くの新型コロナ陽性者を出すという未曾有の経験をいたしました。広島県、広島市、広島大学などとの連携、ご指導に加え、当院スタッフ一同の言葉では尽くせない頑張りにより1月末には終息することができ、2月1日より、通常業務を再開させていただいています。引き続き、感染対策を怠ることなく私共の果たすべき責任を全うしてゆく所存です。改めて関係者の皆様に御礼申し上げます。

総人口の減少、高齢化のキーワードとして語られる「2025年問題」。医療、介護、在宅をつなぐ地域包括ネットワークの推進・充実が一層求められています。広島シーサイド病院スタッフ一同は患者様、入所者様への大きな責任を、コロナ禍にも皆さんとともに打ち勝って、今後共一致団結し取り組んでゆきます。

冒頭にも述べました、新型コロナウイルスの今後の収束に向けた展開はまだ見透せません。常日頃からお世話になっております関係各位におかれましても格段のご指導ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

## 新入職員歓迎

4月1日、入社式が行われ、当院は新たに5名(看護師4名、社会福祉士1名)の職員を迎えました。新入職員は入社後、新入職員オリエンテーションとして、当病院の概要から今後の心構え、医療ケアの基本的な知識などの研修を5日間受講し、各部署に配属されました。

新入職員のやる気に刺激を受けながら、職員全員で力を合わせて広島シーサイド病院を盛り上げていきたいと思えます。



入社式の様子

研修会の様子

## 新型コロナウイルス ワクチン接種

広島シーサイド病院では4月末～5月初旬にかけて1人につき2回、新型コロナウイルスワクチンの接種を行いました。



約250人の職員の接種が滞りなく行えるように職員毎に接種する時間をお知らせし、待合から問診、接種、待機の手順を事前にしっかりリハーサルを行い、接種を行いました。インフルエンザなどの通常のワクチンとは手順が違うこと、ワクチンを解凍してから5日間以内での接種をしなければならないこと、接種後の副反応が出る可能性も含め、各担当者が入念に準備をして臨んだので大きな問題なくスムーズに終わることができました。

現在、広島シーサイド病院、広島シーサイド病院介護医療院に入院、入所されている患者さま、入所さまの接種を順次進めているところです。今後、ワクチンの普及にしたがって、適切な予防措置などが明らかになってくるかと思えます。正しいワクチンの啓蒙活動と新型コロナウイルスの終息を願います。

在宅生活をする要介護者は、福祉サービスや介護サービスを利用しながら生活されています。又、政府も在宅生活を最優先に考え、福祉サービスや介護サービスを充実させつつあります。しかし一方、利用する側も将来的な介護の在り方について考えなくてはいけないかもしれません。現実的に全ての方が終末期まで在宅生活で過ごすのは困難なことで、在宅生活の限界についても考えていかなければなりません。

昨年ある新聞報道で、A市の男性(49歳)筋萎縮性側索硬化症(ALS)の患者で手足や足に麻痺があって車いすを使用しており、夜間は呼吸器をつけている方が紹介されていました。食事、トイレ、入浴等生活全般で障害福祉や介護保険サービスを利用して、市内の自宅で娘(16歳)と妻の介護を受けて3人で暮らしています。今年、症状進行を踏まえサービス拡充を要望し、夜間の見守り日数を増やすなど常時ヘルパーが付き添えるよう弁護士を通じて市に求めました。市は同居する娘に介護を補うように求めましたが、男性側は娘に過度の負担がかかると抗議しました。娘は、当時は新型コロナウイルス感染拡大で高校は休校中だったそうです。

このような、家族を世話する18歳未満の子供は「ヤングケアラー」と呼ばれ、介護の為学業や就職が制限されるケースもあり、支援の強化が必要とされています。全国的に自治体が子供にも介護を期待する傾向にあり、専門家は対応改善を求めています。この男性は、福祉系のサービスと介護保険のサービス2つの制度を利用し、濃厚なサービスを利用しています。その為かなり高額な費用がかかっています。今後も常時ヘルパーが付き添いながら、家族の負担を出来るだけ軽減しながら在宅生活が送れるでしょうか。在宅で生活することは、そこに住む家族も何らかの負担を負うこととなります。私達が家族と一緒に暮らすということは、このような障害だけでなく、個々の家族の問題等何らかの負担や悩みを抱えているのが現状です。この家族も同様に介護負担や経済的負担等、私達には分からない負担があると思います。常時ヘルパーを必要としている状態というのは在宅以外の選択肢、医療機関への入院や施設の入所を検討する時期に来ているのかもしれない。

これからの医療・介護に必要なことは、一人一人も大切にすることが、その為に必要な労力や費用についても考えていく必要があるのではないかと思います。延命治療や高額新薬の必要性など高額医療費の問題もあり、ますます社会保障費は増加し続けるのは間違いなく、社会保障の継続も重要なことです。今後の年齢分布を見てわかるようにこのままでは社会保障の存続が危ぶまれています。又それを支えるべき人的不足で、サービスを受けたくても受けられなく時代が来るかもしれません。その為にも労力や費用の分配の効率性は重要になってきます。持続可能な社会保障になるよう、一人一人が考え、今後の終末期のあり方など、医療、介護について議論する時期がきているのではないかと思います。

## 元宇品紹介 横綱「安藝ノ海」の墓

元宇品の中央付近、観音寺墓苑の中に広島県出身で唯一の横綱になった「安藝ノ海」のお墓があります。坂を登ったところがあり見晴らしが良く、元宇品の東側の海を望むことができます。



### 安藝ノ海

あきのうみ せつお(1914年5月30日-1979年3月25日)は広島県出身の元大相撲力士で第37代横綱です。本名は永田 節男(ながた たかお)。双葉山定次の70連勝を阻止した「世紀の一番」で知られています。広島市宇品町(現・広島市南区宇品御幸)の食料品商の家に生まれ、宇品尋常高等小学校を卒業後は家業を手伝います。具体的にいうと、宇品の港に入ってくる舩(はしけ)に食料品を運ぶ仕事です。舩とは、港と大型船との間を荷物や乗客を運ぶ小さな船のこと。つまり、舩に運んだ食料品を、沖合に泊まっている大型船に積み替えるという作業をしていました。当然、重い荷物がかついで運ばねばなりません。また、舩と栈橋(さんばし)の上にかかけられた渡し板の上を、バランスを取りながら運ぶ必要もありました。そこで節男は、自然と足腰が鍛えられたといわれています。1931年、17歳の時に市内で開催された関西中学校相撲選手権を観戦したところ、スカウトされて角界入りしました。



## 頭の若返り ワーキングメモリー

まず下の  の中の3つの数字とそれを囲う形を覚えましょう。

5 → 2 → 8 →

覚えたら3つの数字を隠し、下の数字の中で上の3つの数字を囲っていきましょう。

4	3	1	6	7
4	8	3	4	9
9	7	2	8	1
2	8	5	9	6
5	8	7	6	2
9	1	3	1	5

# ♥信頼される医療・福祉をめざして…

## ■基本理念

◎常に患者様とご家族の立場に立って行動し、医療・保健・福祉の分野で連携充実を図り、地域のニーズに応えるよう、職員一同頑張ります。

## 外来案内のご案内 休診日/土・日曜日、祝祭日、盆、年末年始

### ●内科・リハビリテーション科・放射線科

診療時間	月	火	水	木	金
9:00~11:30 13:00~16:00	荒巻	上杉	池田 沖田	山本	上松瀬 日域

### ●脳神経内科

診療時間	月	火	水	木	金
9:00~11:30	湯川	湯川		湯川	

医療法人 和同会

## 広島シーサイド病院

診療科目/内科・脳神経内科・リハビリテーション科・放射線科

医療療養病床183床・介護医療院147名(定員)

〒734-0012 広島市南区元宇品町26-20

TEL (082) 255-1010 FAX (082) 255-6826

<http://www.ss.wadoukai.jp>

- 広島シーサイド病院 介護医療院 TEL (082) 255-1010
- 通所リハビリテーション TEL (082) 252-2781
- 訪問看護ステーション ハローナースシーサイド TEL (082) 255-1424
- ショートステイ元宇品 TEL (082) 255-1221
- グループホーム元宇品 TEL (082) 255-1239
- デイサービス元宇品 TEL (082) 255-1271
- 元宇品居宅介護支援事業所 TEL (082) 255-1422

## ■基本方針

- ◎信頼され、安全性の高い医療サービスを目指すため、職員の研鑽と協調に努めます。
- ◎患者様、ご家族、職員がお互いに尊重し合い、ともに喜び、生きがいもてるようチーム医療を推進します。
- ◎地域に根ざした、住民とともに歩む病院を目指します。
- ◎病院の質を高め、健全経営に努めます。
- ◎職業を通して、社会人としての豊富な人間性を養います。

## ●ごあんない



- バス/広島バス21号線(宇品線)シーサイド病院入口バス停より徒歩5分
- 電車/広島電鉄宇品線元宇品電停より徒歩10分
- タクシー/広島駅より元宇品方面へ約30分

## 編集後記

遅くなりましたが、シーサイドニュースをお届けします。早速、個人的な話から始まりますが、2ヶ月前に自転車で転倒して右手首を骨折してしまいました約6週間、利き手をギプスで固定をしなければならなくなりました。普通が当然。使えたら当然。何気なしに当たり前にやっていることが、生活の中にはのすごく多くあります。怪我をして改めてそのことを痛感しました。特に不自由に感じたことを書きつづります。

仕事はパソコンでの作業が多いので仕事が全くできないということではなかったのが不幸中の幸いでした。しかし、マウスもキーボードも左手だけというのは普段の倍以上の時間を要するし、文字を書くのは本当に困りました。次に生活。食事は左手で箸がうまく使えず、スプーンとフォークが中心になりました。ラーメンなどの麺類はフォークで食べるのに苦戦しました。他には衣服の着脱に困りました。左手でボタンの開け閉めに時間がかかることは想像できると思いますが、洋服のジッパーを片手で上げるのはのすごく難しかったです。細かなことを挙げるときりがありませんが、両手で行う、両手だから出来る行為というのは思いのほか多くて、脇や足や口を使ってなんとかなったりならなかったり…。今回の怪我で、身体が不自由な人の気持ちが少し分かったような気がしました。

最後に、怪我で手が不自由な時に仕事や生活など様々なことで回りの方に助けていただきました。また同時にたくさんで迷惑おかけしました。本当にありがとうございました。今後はこのようなことにならないよう十分に気を付けたいと思います。(編集N)